

富山県福光町

在 房 遺 跡 III  
久 戸 II 遺 跡 I

2003年3月

福光町教育委員会

## 序

福光町の東部に位置する北山田地区は、山田川と大井川にはさまれた水田地帯であります。近年の発掘調査等で、縄文時代から近世までの様々な遺跡が発見され、多くの歴史的遺産が埋蔵されていることが分かりました。

今回の調査は、県営ほ場整備事業(北山田北部地区)の実施に伴う在房遺跡、久戸Ⅱ遺跡の発掘調査です。遺跡の大半は盛土により保存し、一部の用排水路用地や田面削平部分について本調査を実施することになりました。

今年度の調査の結果、平安時代の流路や掘立柱建物などが見つかりました。また、縄文土器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁などの遺物が出土しました。本書は、その調査の成果をまとめたものです。郷土の歴史の解明や学術研究等に活用していただければ幸いです。終わりに、この調査の実施にあたり、富山県埋蔵文化財センター、福光町シルバー人材センター、富山県農林水産部、ほ場整備事業北山田北部地区委員会をはじめ、地元住民の方々に多大な御協力を賜りましたことに、深く感謝を申し上げます。

平成15年3月

福光町教育委員会

教育長 石崎栄一

## 例　　言

1. 本書は、県営ほ場整備事業（担い手育成型）北山田北部地区に伴う富山県福光町在房遺跡及び久戸Ⅱ遺跡の発掘調査概要である。
2. 調査は、平成14年4月30日から同年7月30日までである。調査面積は在房遺跡640m<sup>2</sup>、久戸Ⅱ遺跡1,040m<sup>2</sup>である。調査は、富山県農林水産部の委託を受け、福光町教育委員会が実施した。地元負担金については、福光町教育委員会が四庫補助金・県費補助金を受けた。
3. 調査事務局は福光町教育委員会生涯学習課におき、指導文化係長 石黒久尚、指導文化係主事 片田亜紀が調査事務を担当し、生涯学習課長 加藤信行が総括した。調査の担当及び本書の執筆は、生涯学習課指導文化係主事 片田亜紀、同係嘱託 西村倫子が行った。
4. 発掘調査から本書の作成に至るまで、下記の方々の協力・助言があった。記して謝意を表する。  
太嶋男・南保久夫・林敏三・増宮正泰・宮田進一・山田政寛（敬称略・五十音順）
5. 本書で使用した方位は真北である。土層の観察には、小出正忠・竹原秀雄編著1967「新版標準土色帖」日本色研事業株式会社を用いた。
6. 調査参加者は次の通りである。
  - 井口富士雄・高松勲・棚山俊雄・溝口外雄
  - 大門そと・水口貞子・水口浜子・溝口秋子・山山きみ子（現地作業員）
  - 安田富子（遺物整理作業）

## 目　　次

I 位置と環境	1	第7図 在房遺跡4地区造構配置図(1)	8
第1図 位置と周辺の遺跡	1	第8図 在房遺跡4地区造構配置図(2)	9
II 調査に至る経緯と経過	2	第9図 久戸Ⅱ遺跡1地区造構配置図(1)	10
第1表 調査経過	2	第10図 久戸Ⅱ遺跡1地区造構配置図(2)	11
第2表 遺跡の概要	2	第11図 在房遺跡4地区的造構	12
第2図 遺跡範囲と調査区位置図	3	第12図 久戸Ⅱ遺跡1地区的造構	13
III 調査の概要	4	第13図 在房遺跡4地区・久戸Ⅱ遺跡1地区 出土の遺物	14
1 調査の方法	4	第14図 久戸Ⅱ遺跡1地区出土の遺物	15
第3図 在房遺跡4地区的地形と調査区割	4	図版1 調査区全景	
2 在房遺跡4地区的概要	5	図版2 在房遺跡4地区的造構	
第4図 在房遺跡4地区的基本層序図	5	図版3 久戸Ⅱ遺跡1地区的造構	
3 久戸Ⅱ遺跡1地区的概要	6	図版4 在房遺跡4地区・久戸Ⅱ遺跡1地区 出土の遺物	
第5図 久戸Ⅱ遺跡1地区的基本層序図	6	図版5 久戸Ⅱ遺跡1地区出土の遺物	
第6図 久戸Ⅱ遺跡1地区的地形と調査区割	6	報告書抄録	
IVまとめ	7		
参考文献	7		

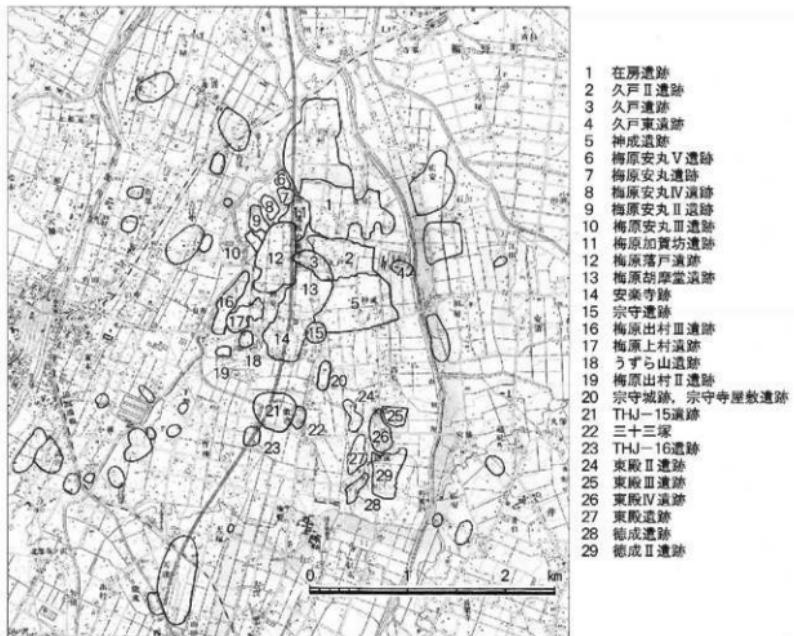
## I 位置と環境

富山県福光町は、石川県金沢市との県境をなす富山県の西南部端に位置する。町の西側から南側にかけては、養老三年（719年）、泰澄大師によって開山されたと言われる雲峰医王山をはじめとする山脈が連なる。町の南側に位置する上平村との境にある大門山に源を発する小矢部川が、その支流とともに平野部を形成する。市街地は主に小矢部川沿いに展開し、小矢部川とその支流である山田川にはさまれた段丘には小河川が縦横に走り、それらを利用した田地が広がる。

在房遺跡及び久戸Ⅱ遺跡は、山田川左岸の緩やかな傾斜を持つ洪積台地上の高宮田尻面に位置する[金田章裕 1993]。在房遺跡は、行政区画上では福野町との境界に接する。久戸Ⅱ遺跡は、在房遺跡の南側に隣接する。現況は主に田地・畑地である。山田川を隔て、砺波平野を一望できる微高地に立地し、台地末端から河川域までの比高差は2m前後を測る。

周辺には、久戸遺跡、神成遺跡、梅原加賀坊遺跡、梅原安丸遺跡群などの遺跡が密集しており、近年の調査で、古墳時代・奈良・平安時代の住居跡や中世の建物跡が数多く発見されている。また墨書き器や製塩土器なども出土しており、北山田地区一帯では古くから大規模な集落が営まれていたことがわかる。

文献資料では、福光町の一部が砺波川上郷に含まれていたとされている。平安時代には川上村と呼ばれ官倉が置かれていたことが知られる。その後11世紀には円宗寺領石黒庄が成立し、当地域はそのうちの山田郷の一部に比定される。



第1図 位置と周辺の遺跡 (S=1:50,000)

## II 調査に至る経緯と経過

平成10年(1998年)、福光町北山田北部地区において、県営は場整備事業(担い手育成型)が策定された。この事業は農地を担い手に集積し、経営規模を拡大させることにより低コスト化を目指すものであり、田の大区画による基盤整備を行うものである。事業計画は在房、久戸、神成、宗守の約100haを対象とし、平成10年度から平成14年度までがT期とされていた。これに先立ち平成8年度に、町教委員会は県埋蔵文化財センターの職員の派遣を受けて、事業計画地内で遺跡分布調査を行ったところ、広範囲において遺物の散布地を確認した。そのため、平成10年度からは国庫補助金を受けて遺跡の範囲確認を行うため試掘調査を実施した。試掘調査の結果、遺跡が広範囲に渡って遺存していることが確認されたため、県農地林務部、県教育委員会、地元土地改良区と遺跡の保護措置について協議を重ねた。その結果、遺跡の大半は盛土を行うことで水田下に保存し、一部の而工事・農道建設・排水路部分のような遺跡が保存できない場所について本調査を実施することとなった。以降、試掘調査を毎年度継続して行い、平成12年度からは並行して本調査を行っている。

平成14年度の調査は在房遺跡4地区の約640m<sup>2</sup>と、久戸Ⅱ遺跡1地区の約1,040m<sup>2</sup>である。在房遺跡4地区は在房遺跡の中央部に位置し、用排水路着工により削平を受けるため本調査対象となった。久戸Ⅱ遺跡1地区は久戸Ⅱ遺跡の中東部に位置し、用排水路着工と一部田面調整工事により削平を受けるため本調査対象となった。

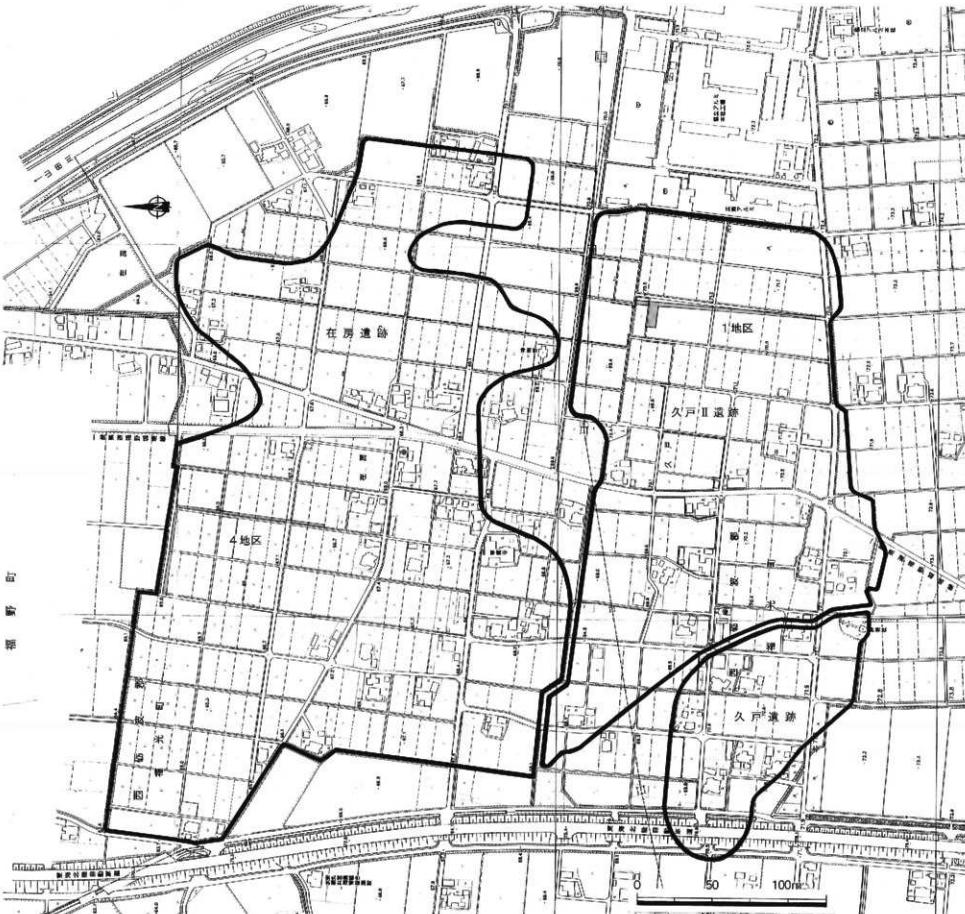
北山田北部地区に所在する遺跡の、これまでの調査面積は次のとおりである。

第1表 調査経過

	遺跡名	試掘調査対象面積	本調査面積
平成10年度	在房遺跡	約6.0ha	—
	在房遺跡	約24.3ha	—
平成11年度	久戸Ⅱ遺跡	約9.4ha	—
	在房遺跡	約6.1ha	3,175 m <sup>2</sup>
平成12年度	久戸Ⅱ遺跡	約6.0ha	—
	久戸Ⅱ遺跡	約3.8ha	—
	神成遺跡	約9.3ha	—
	在房遺跡	—	305 m <sup>2</sup>
平成13年度	神成遺跡	約18.3ha	—
	久戸Ⅱ遺跡	約0.6ha	—
	在房遺跡	—	640 m <sup>2</sup>
平成14年度	久戸Ⅱ遺跡	—	1,040 m <sup>2</sup>
	宗守遺跡	約1.7ha	—
	神成遺跡	約3.2ha	—
	梅原胡座堂遺跡	約4.2ha	—

第2表 遺跡の概要

遺跡名	所 属 時 代	発見された遺構	発見された遺物
在房遺跡	縄文時代後期、古墳時代、古代、中世	竪穴住居、掘立柱建物、土坑、溝、井戸、柱穴	绳文土器、須恵器、土師器、製塗土器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、木製品、紡錘車
久戸遺跡	縄文時代、中世	柱穴、土坑、溝	绳文土器、須恵器、土師器、珠洲、瀬戸、青磁、白磁、肥前系陶磁器
久戸Ⅱ遺跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世	竪穴住居?、掘立柱建物、土坑、溝、柱穴	绳文土器、弥生土器、須恵器、土師器、珠洲、木製品
神成遺跡	縄文時代、古代、中世、近世	土坑、柱穴、溝	須恵器、土師器
宗守遺跡	縄文時代中期	柱穴、土坑、溝	土師器、須恵器、中世土師器
梅原胡座堂遺跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代、中世、近世	呂跡、掘立柱建物、溝、掘、竪穴住居、井戸	绳文土器、打製石器、土師器、須恵器、中世土師器、珠洲、青磁、白磁、越前、越中瀬戸、瀬戸美濃、石臼



第2図 遺跡範囲と調査区位置図 (S=1:5,000)

### III 調査の概要

#### 1. 調査の方法

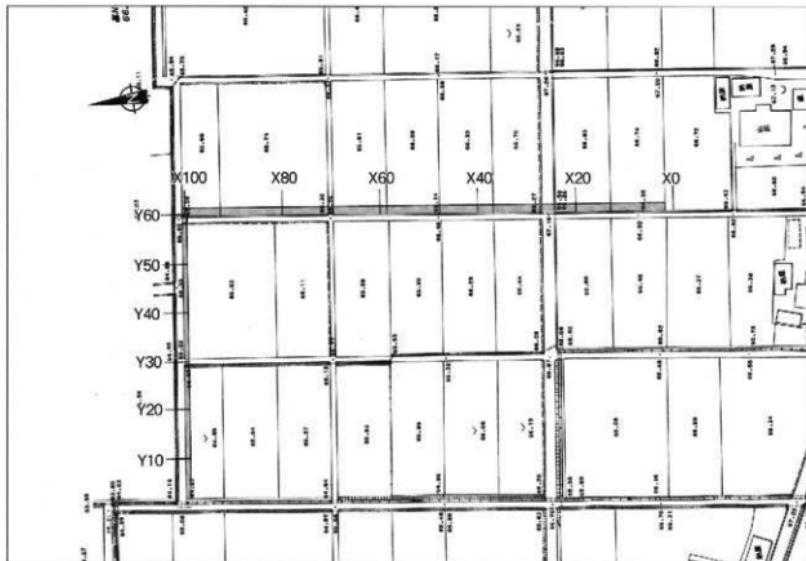
調査区域の設定後、試掘調査の結果にもとづき、調査員の立ち会いのもとで表土除去を行った。表土除去には重機を使用し、耕作土および前回は場整備時の盛土の層まで掘削した。耕作土は、盛土と分けて調査区の外に搬出した。

表土除去後に、調査区に合わせたおおよその東西方向、南北方向に基準杭を設置して調査区割りを行った。区割りは、南から北にX軸、西から東にY軸とし、2mを一区画としてアラビア数字で表記した。

調査区に合わせてサブトレーンチを設定し、地山面まで掘り下げて層位を観察した。一部にセクションベルトを残して層位を確認しながら、人力による包含層掘削、遺構検出、遺構掘削を行った。遺構の掘削は、埋土の堆積状況を観察するために半段するか、セクションベルトを2本ないし3本残して掘削し、土層の記録作業が終わりだい完掘した。排土は、人力により調査区外へ搬出した。

遺構は検出後、1:100で概略図を作成して、遺構毎に通し番号をつけた。遺構の検出状況や土層、遺物の出土状況は、調査員と調査補助員が手実測により1:20で図化した。各遺構の検出状況、断面、完掘状況などの記録写真、調査区のブロック写真、全体写真は調査員が撮影した。すべての遺構完掘終了後、ラジコンヘリコプターによる空中写真撮影を図化用に行い、あわせて俯瞰・斜め写真等を撮影した。

出土遺物は、現地作業と並行して洗浄・バインダー処理・注記・仕分けの整理作業を行った。接合、復元は現場作業中止時や、現場終了後に行った。遺物実測やトレース等は基準を統一し、調査員と整理員で図版を作成した。写真や図面は年度・遺跡・地区毎にファイルにまとめ、出土遺物は報告書の写真図版のとおりに整理箱に収めた。またそれ以外の遺物は地区の遺構毎、グリット毎にならべて整理箱に収めた。

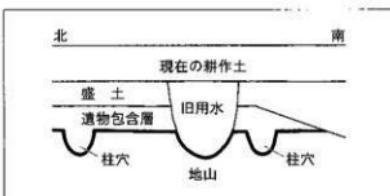


第3図 在房遺跡4地区の地形と調査区割 (S=1:2,000)

## 2. 在房遺跡4地区の概要

### (1) 地形と基本層序 (第4図)

在房遺跡4地区は在房遺跡の中央部に位置し、県道福野城端線の西側100mに設定している。海拔64.9～66.9mを測り、地形は南から北へ緩やかに傾斜している。地表から地山面までの深さは約30～60cmであり、地山(黄褐色粘質土)、遺物包含層(黒褐色粘質土)、前回は場整備時の盛土(茶褐色粘質土)、現在の耕作土の順に堆積している。



第4図 在房遺跡4地区の基本層序図

### (2) 遺構の概要

掘立柱建物1、土坑3、柱穴がある。

#### S B01 (第11図、図版2)

調査区の北西端、X99、Y4～6付近に位置する。柱穴の深さはばらつきがある。柱間は約1.1mである。埋土は、黒色粘質土が中心で、それに地山が混じる。柱根は確認できない。柱列のほとんどが調査区外へ延びているため建物の規模は不明である。

#### S K01 (第11図)

調査区の南側、X14、Y60付近に位置する。東西方向約50cm、深さ約10cmの長方形の土坑である。埋土は、黒色土に地山が混じる。

#### S K02 (第11図)

調査区の南側、X17、Y60付近に位置する。東西方向約70cm、深さ約15cmの不整形の土坑である。埋土は、黒色土に地山が混じる。

#### S K03 (第11図、図版2)

調査区の南側、X19、Y60付近に位置する。南北方向約1.8m、東西方向約80cm、深さ約20cmの長方形の土坑である。埋土は黒褐色シルトが中心である。遺物は出土していない。

### その他の遺構

今回検出した遺構はX99～100、Y2～10付近とX10～23、Y60～61付近に集中している。直径20cm前後の円形で、深さは20cm前後、黒色シルトに地山粘質土が混じる柱穴が多い。調査区の北西部X55～99、Y60付近には包含層が約30cmと厚く堆積しているが、遺構は検出していない。

### (3) 遺物の概要 (第13図)

出土遺物には、須恵器、土師器、中世土師器、珠洲、青磁がある。すべて包含層からの出土である。

1は須恵器・蓋である。2は須恵器・杯である。底径は7.0cmである。1・2は8世紀代のものと考えられる。3は須恵器・壺の口縁部である。4は須恵器・壺の底部である。底径は9.2cmであり、内面にナデ調整がみられる。5は土師器・壺である。6・7は土師器・杯である。7は口径が9.0cmで、器高は2.6cmを測る。外面上にナデ調整がみられ、非ロクロ成形と思われる。8・9は珠洲・すり鉢であり、13世紀前半のものと思われる。8は体部破片である。9は底径14.0cmである。10は青磁の体部破片である。縦書きの蓮弁文が施されている。

### 3. 久戸Ⅱ遺跡1地区の概要

#### (1) 地形と基本層序 (第5図)

久戸Ⅱ遺跡1地区は、山田川左岸の段丘上に位置し、海拔は70.1～71.1mを測る。調査区は南北に細長く、地形は南から北へ緩やかに傾斜している。地表から地山面までの深さは約15～20cmであり、地山（黄褐色粘質土）、遺物包含層（黒褐色粘質土）、前回は場整備時の盛土（茶褐色粘質土）、現在の耕作土の順に堆積している。

#### (2) 遺構の概要

掘立柱建物1、溝3、柱穴がある。

#### S B01 (第12図、図版3)

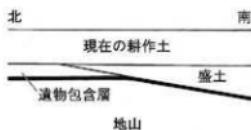
調査区の南寄り、X30、Y15～16付近に位置する。直径約40～60cmの大型のものである。柱穴の深さは約20cm前後、柱間は東西方向で1.8m、南北方向で1.4mである。主軸は北に対し15度西にふれる。柱痕は確認されない。

#### S D01 (第12図、図版3)

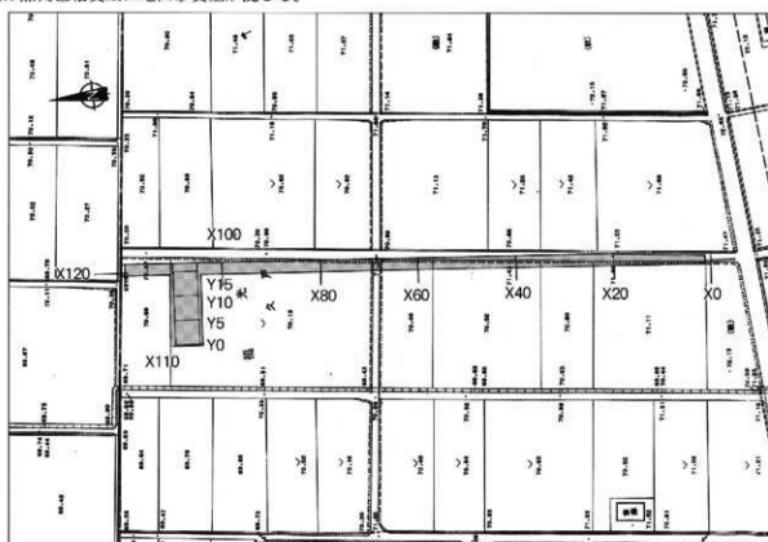
X106～110、Y7～12を南東から北西へ流れる。X108、Y11付近でS D02を切るかたちで屈曲する。さらにX108、Y9付近で北西へ屈曲しS D02と並行して調査区外へ延びる。幅約50cm、検出面からの深さ約10～15cmである。遺物は須恵器・杯、土師器・碗が出土している。②層と③層で砂質土が混じる。

#### S D02 (第12図、図版3)

X106～110、Y9～13に位置し、南東から北西に走る。S D01に切られる。幅約40cm、深さ約15cmである。埋土は黒褐色粘質土に地山砂質土が混じる。



第5図 久戸Ⅱ遺跡1地区の基本層序図



第6図 久戸Ⅱ遺跡1地区の地形と調査区割 (S=1:2,000)

### SD03 (第12図、図版3)

前回は場整備事業により削平を受けており、遺存状況が悪い。検出された部分でX106～108、Y0～5に位置する。幅約25cm、深さ約12cmである。埋土は黒褐色粘質土に地山砂質土が20%混じる。遺物は土師器・甕が出土している。

#### (3) 遺物の概要

出土遺物には、縄文土器、弥生土器、須恵器、土師器、中世土師器がある。

### SD01 (第13図 11～16)

11は須恵器・杯である。11径は約14.0cmである。12は土師器・碗で底径は7.0cmである。13は土師器・碗で底径は8.0cmである。14は土師器・杯で底径は5.8cmであり、底部には糸切り痕がある。15は土師器・杯で底径は6.0cmである。底部に糸切り痕がある。摩耗が激しい。16は土師器・杯で底径は4.8cmである。底部に糸切り痕がある。

### SD03 (第13図 17・18)

17・18は土師器・壺の口縁部である。17の口径は13.0cmである。18の口径は15.0cmである。

### 包含層 (第13図 19～25、第14図)

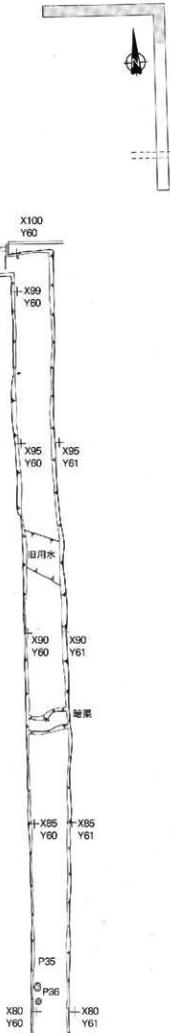
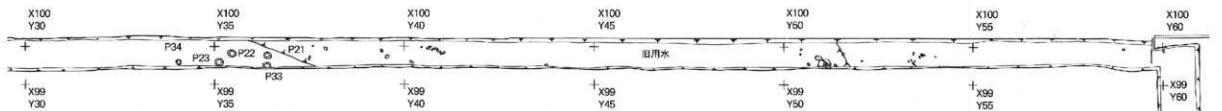
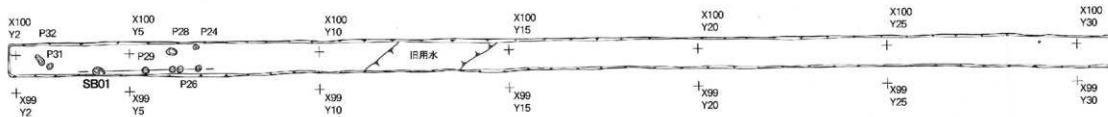
19は縄文土器の浅鉢である。口径30cmであり、後期後半の八日市新保式にあたる。20は弥生土器の鉢で、底部に孔を穿つ有孔鉢である。23～25は土師器・高杯部である。杯底部から口縁部にかけて直線的に開く。24・25は内面にハケナデが認められる。26～28は土師器・高壺である。脚部が断面途中でなだらかに屈曲し外へ開く。脚部に円形の透孔がある。29～44は土師器・壺の口縁部である。婦中町南部I遺跡の壺E類に類似することから、弥生時代後半から古墳時代初めのものと思われる[婦中町教育委員会2000]。45～49は須恵器である。45は杯である。46はつまみ付きの蓋である。47は甕である。48は壺である。49は甕の底部である。底径は10.8cmである。

## IV まとめ

1. 在房遺跡4地区からは建物跡の可能性がある柱穴列が見つかっているが、遺構密度は薄く、また遺構から出土の土器もほとんど無く、集落の構造を明らかにするには至らなかった。
2. 久戸II遺跡1地区からは、包含層から縄文土器の鉢、弥生土器の鉢・高杯などが出土した。しかし全体的に前回は場整備のかく乱を受けており、遺跡の遺存状態は悪い。

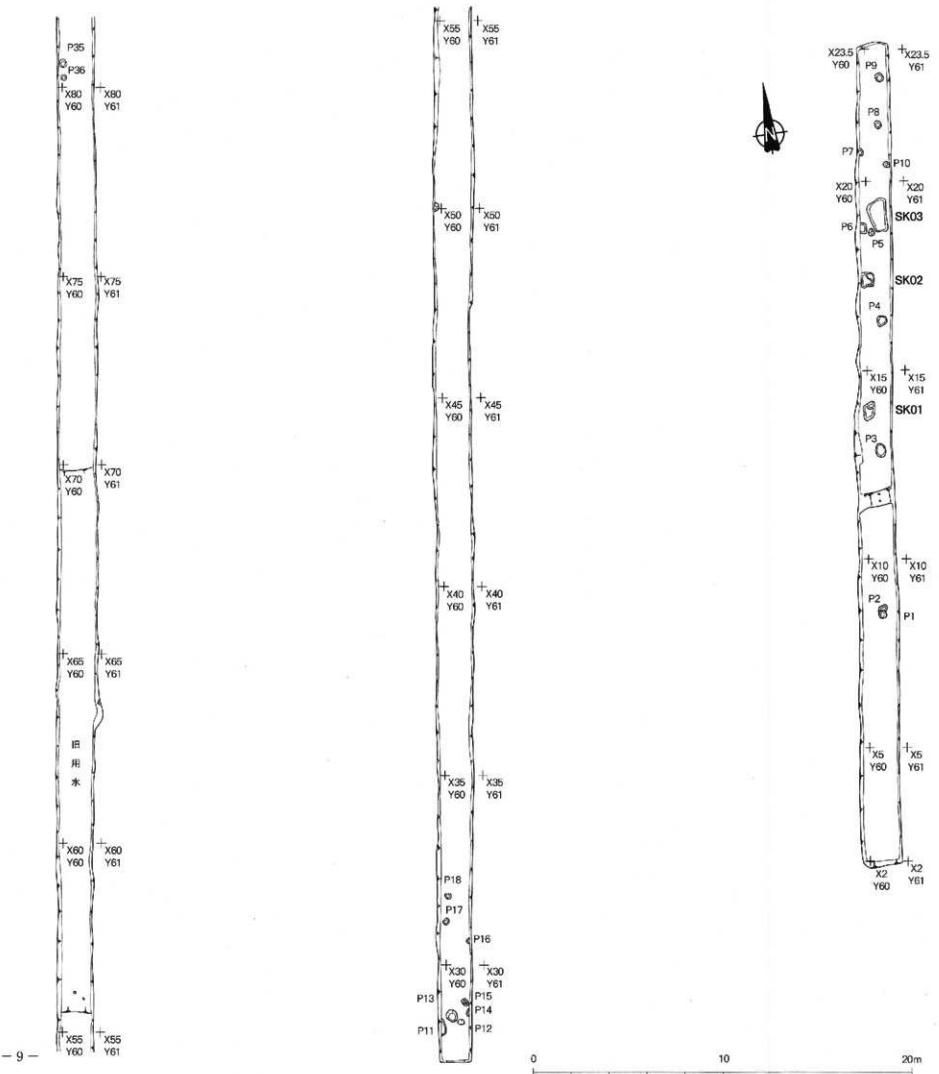
### 参考文献

- 大島町教育委員会2000『八尾C遺跡』  
金田幸裕1993『北王山壺の平原における中世の景観』『灰土は語る』  
福光町教育委員会1999『梅原胡摩堂遺跡Ⅲ 梅原出村遺跡群Ⅲ』  
福光町教育委員会2001『徳成Ⅱ遺跡Ⅰ』  
福光町教育委員会2001『在房遺跡Ⅰ』  
福光町教育委員会2002『在房遺跡Ⅱ』  
婦中町教育委員会2000『県富む手作成古墳整備事業に係る埋蔵文化財包蔵地試掘調査報告書  
—婦中南部地区・千早地区一』  
舟橋村教育委員会2000『浦山遺跡発掘調査報告(3)』  
北陸古代土器研究会1993『北陸古代土器研究第3号』  
北陸古代土器研究会1994『北陸古代土器研究第4号』  
北陸古代土器研究会1995『北陸古代土器研究第5号』  
北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第6号』  
北陸古代土器研究会1997『北陸古代土器研究第7号』  
吉岡康輔1991『日本海城の土器・陶磁 [古代編]』六興出版

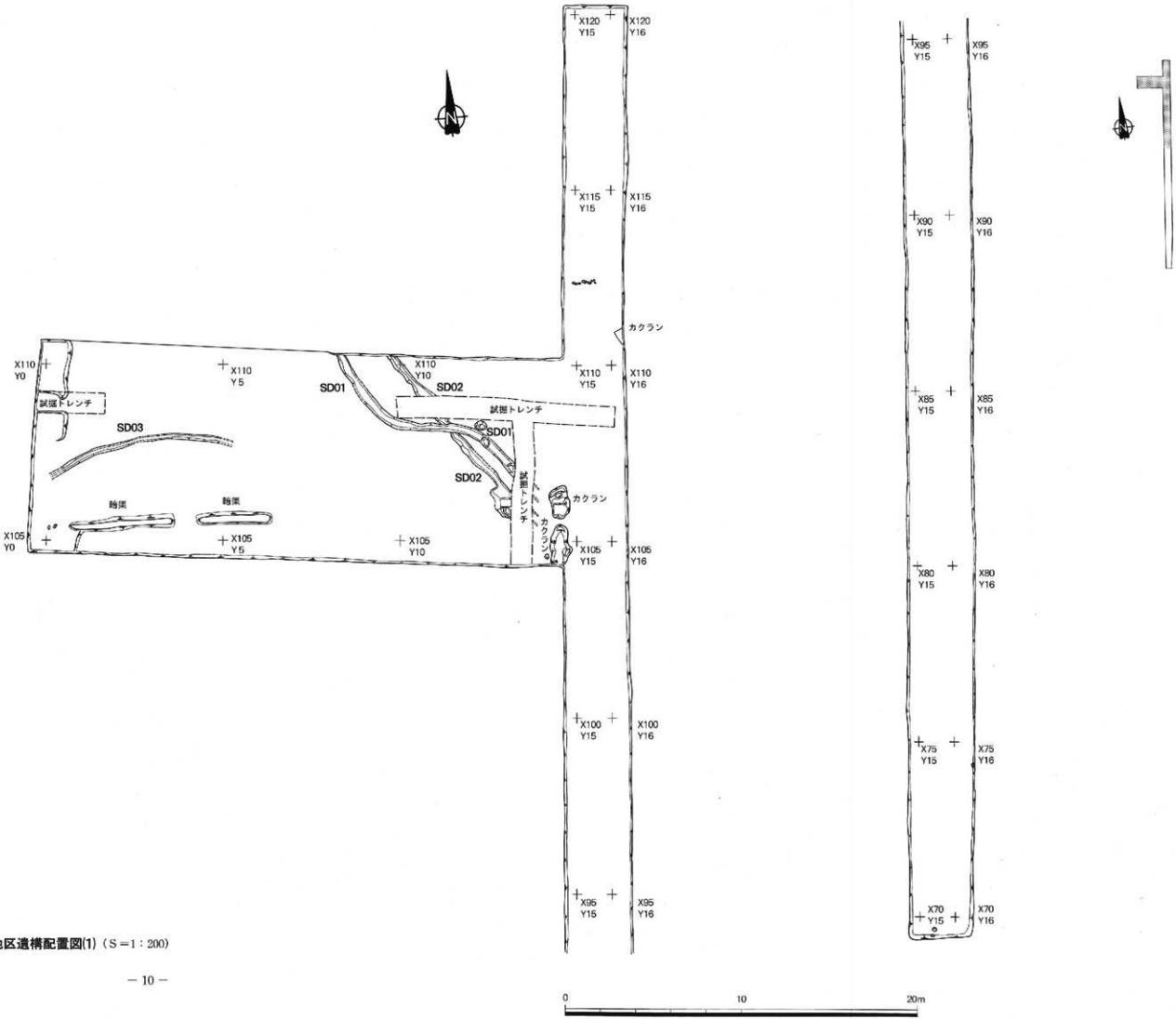


第7図 在房遺跡4地区遺構配置図(1) (S=1:200)

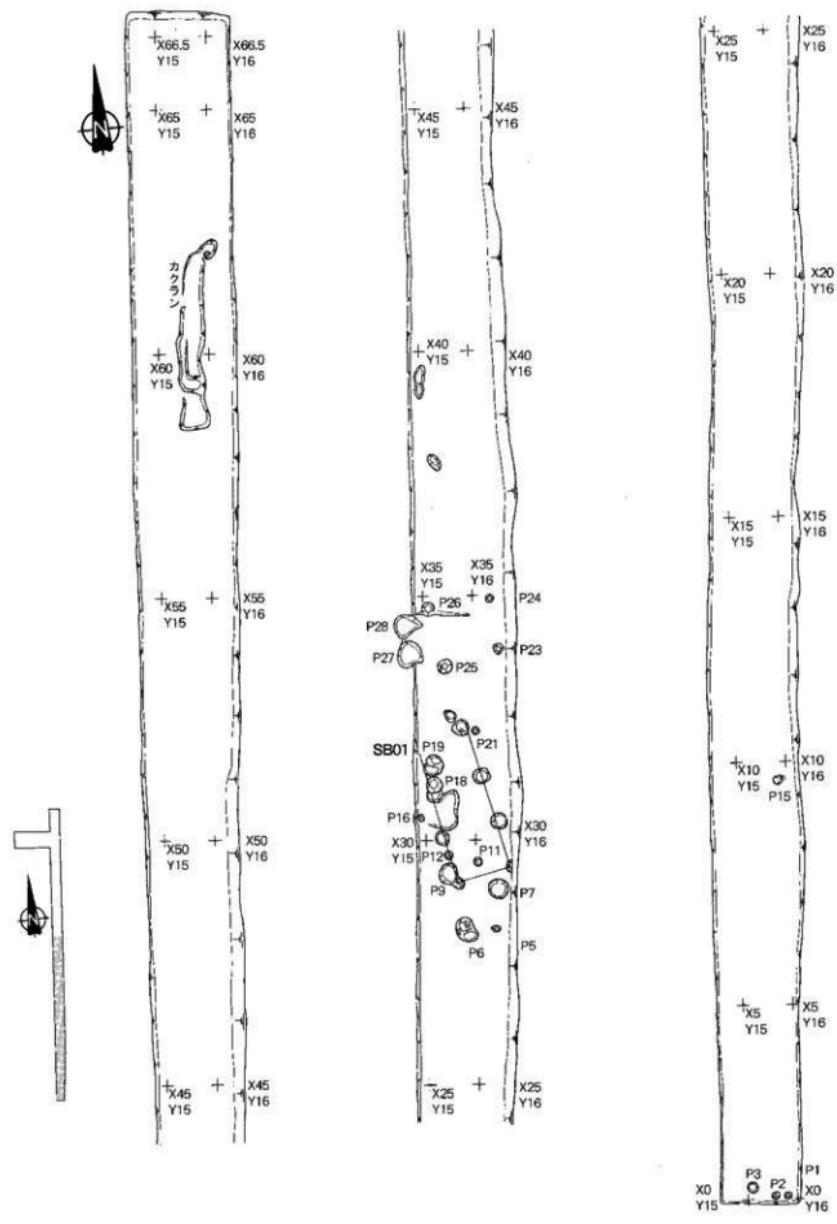
0 10 20m



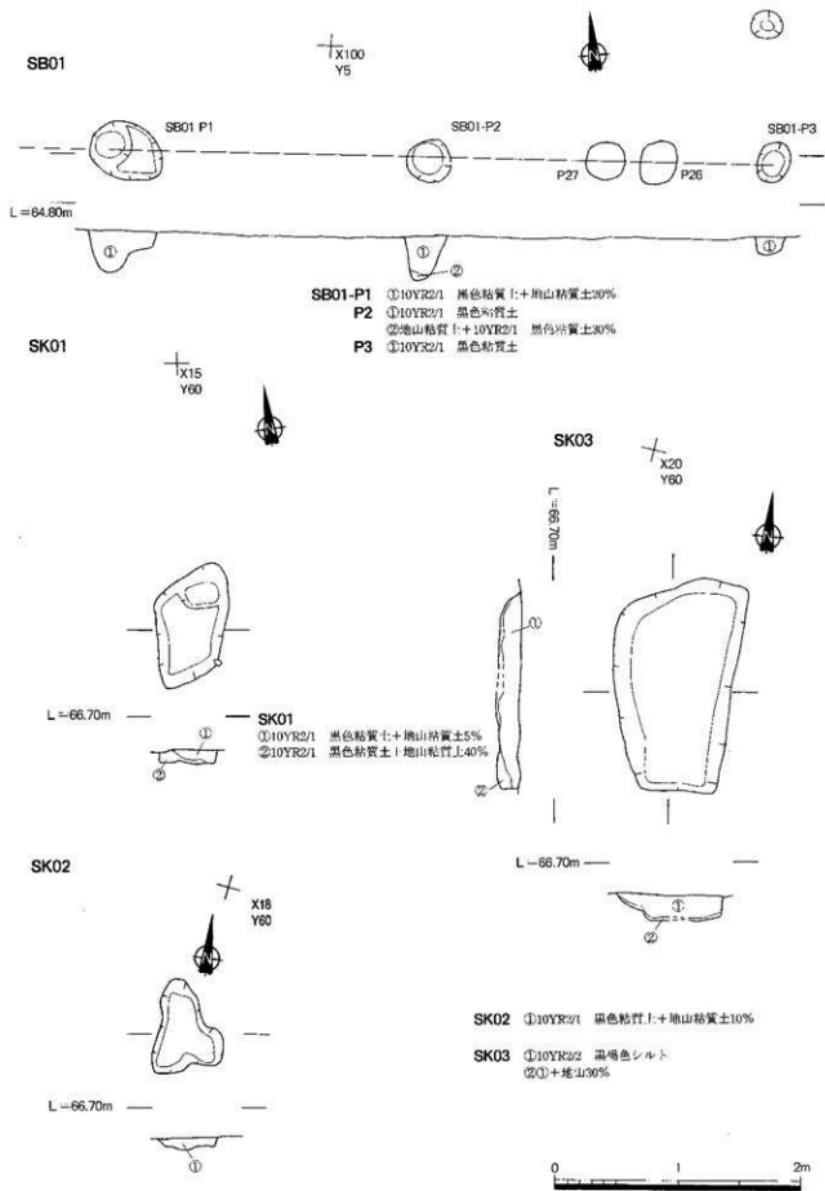
第8図 在房遺跡4地区遺構配置図(2)  
(S=1:200)



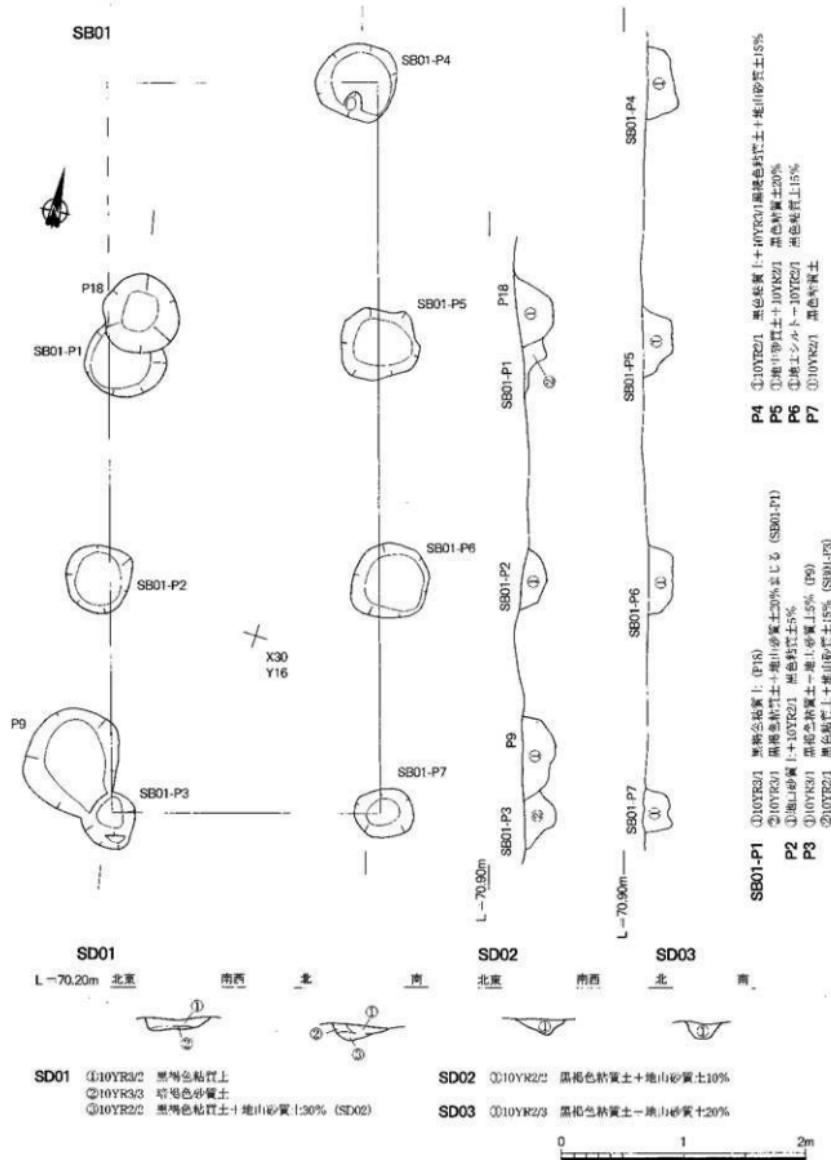
第9図 久戸II遺跡1地区遺構配置図(1) (S=1:200)



第10図 久戸Ⅱ遺跡1地区遺構配置図(2) (S=1:200)

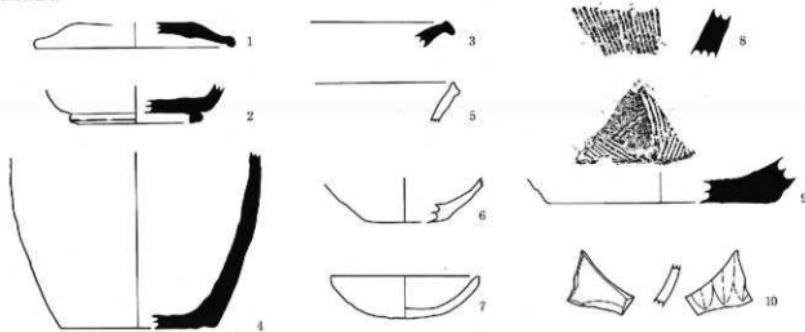


第11図 在房遺跡4地区の遺構 (S=1:40)

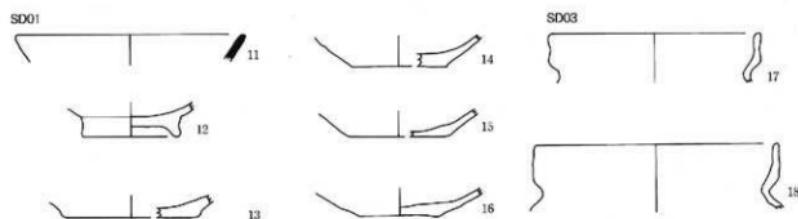


第12図 久戸II遺跡1地区の遺構 (S=1:40)

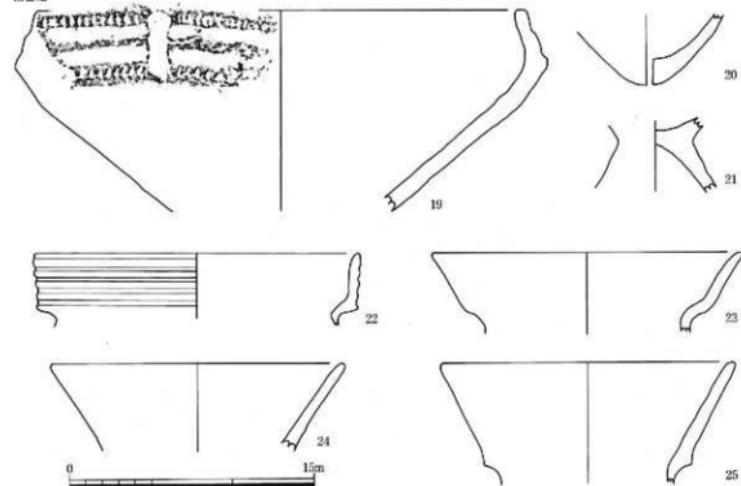
在房遺跡



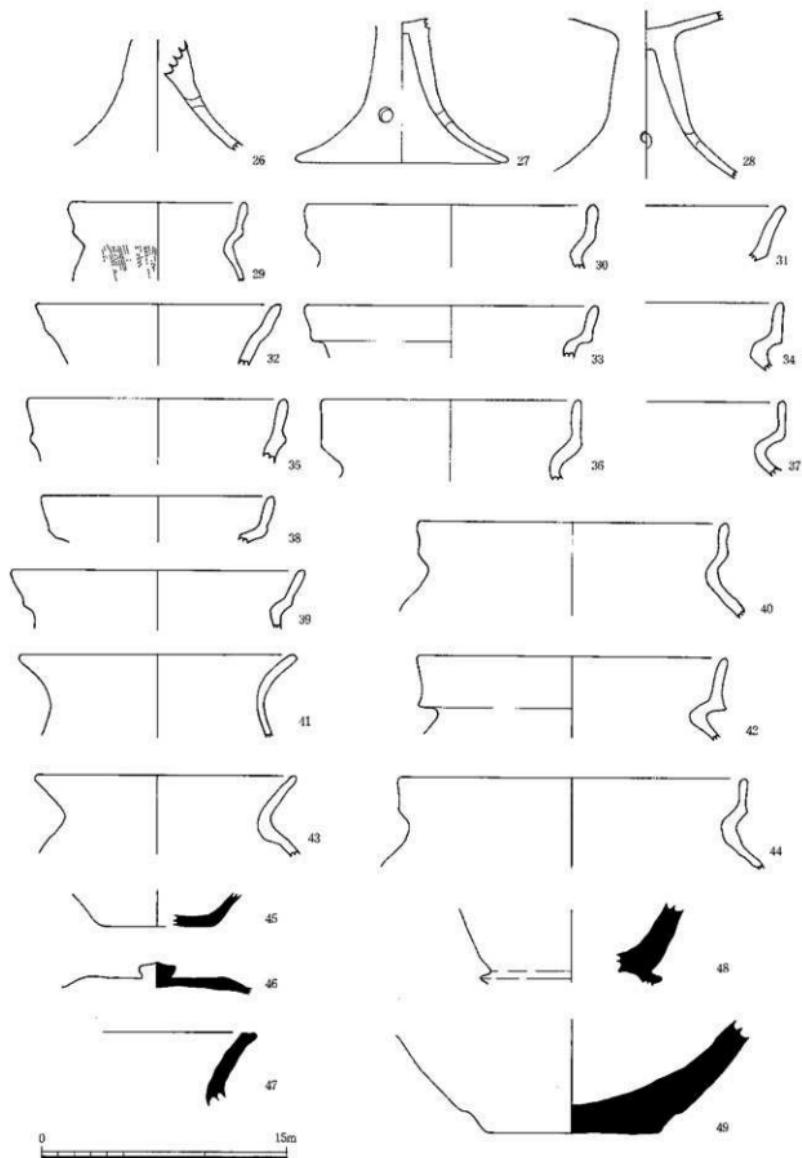
久戸Ⅱ遺跡



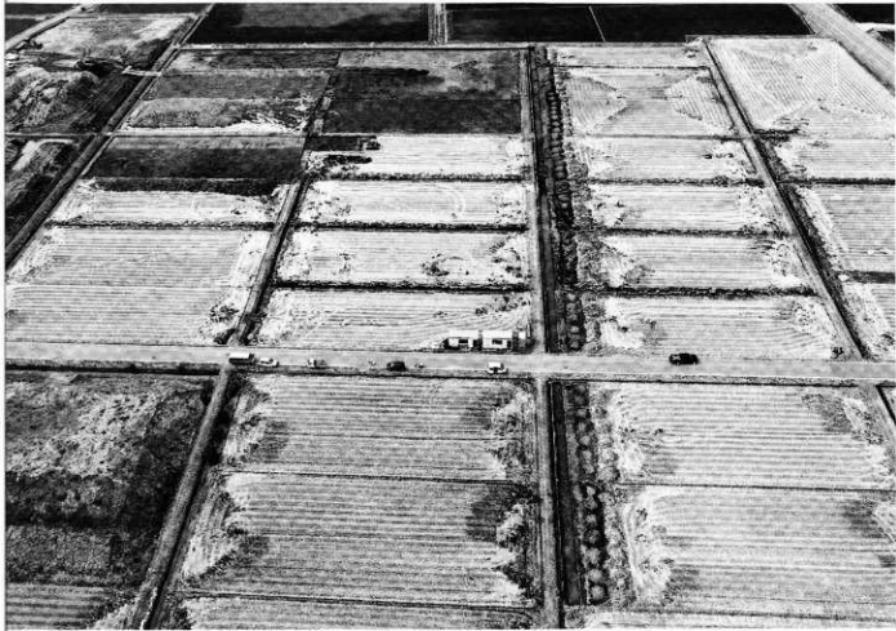
包含層



第13図 在房遺跡4地区・久戸Ⅱ遺跡1地区出土の遺物 (S=1:3)



第14図 久戸Ⅱ遺跡1地区出土の遺物 (S=1:3)



①

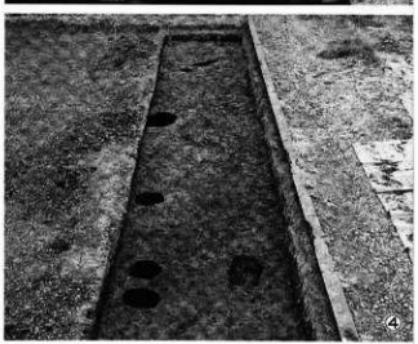
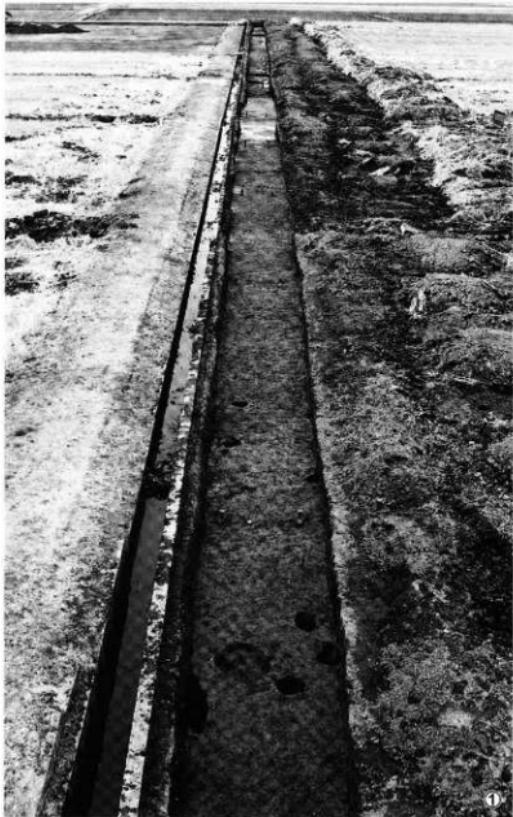


②

### 図版1 調査区全景

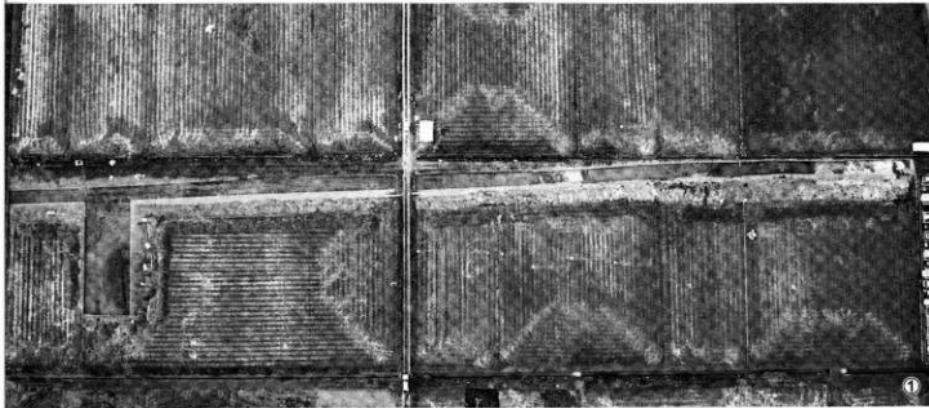
① 在房遺跡4地区全景（南から）

② 久戸Ⅱ遺跡1地区全景（北から）



図版2 在房遺跡4地区の造構

- |                             |                 |                     |
|-----------------------------|-----------------|---------------------|
| ① 調査区北側<br>④ X100 Y2 ~ 10付近 | ② 調査区南側<br>⑤ P4 | ③ SK03<br>⑥ 基本土層と柱穴 |
|-----------------------------|-----------------|---------------------|



①



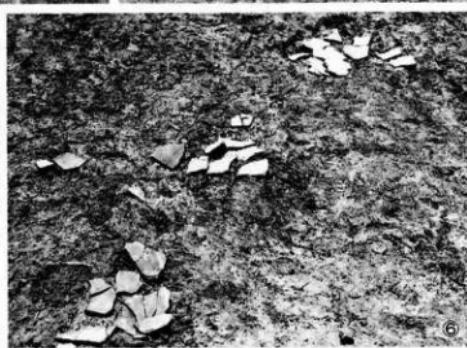
③



④



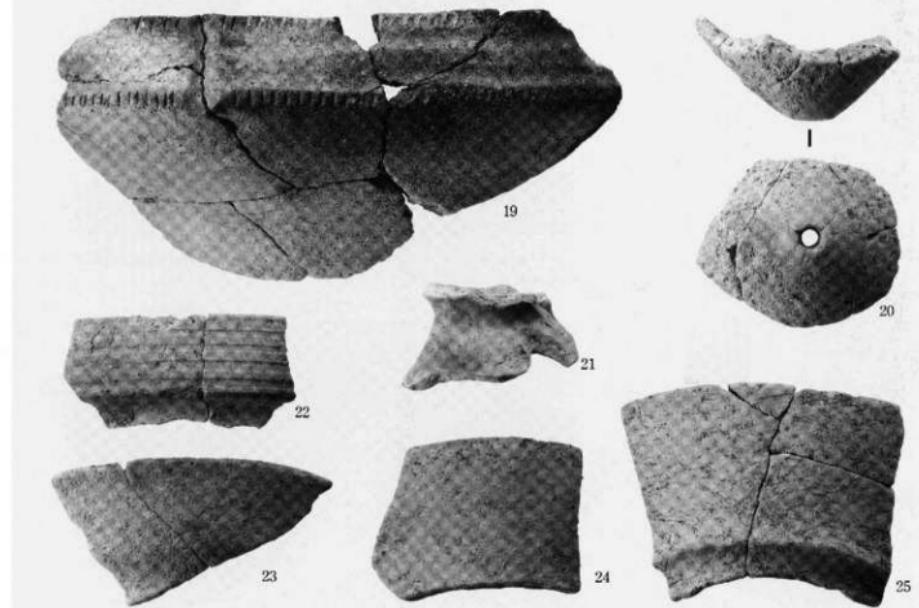
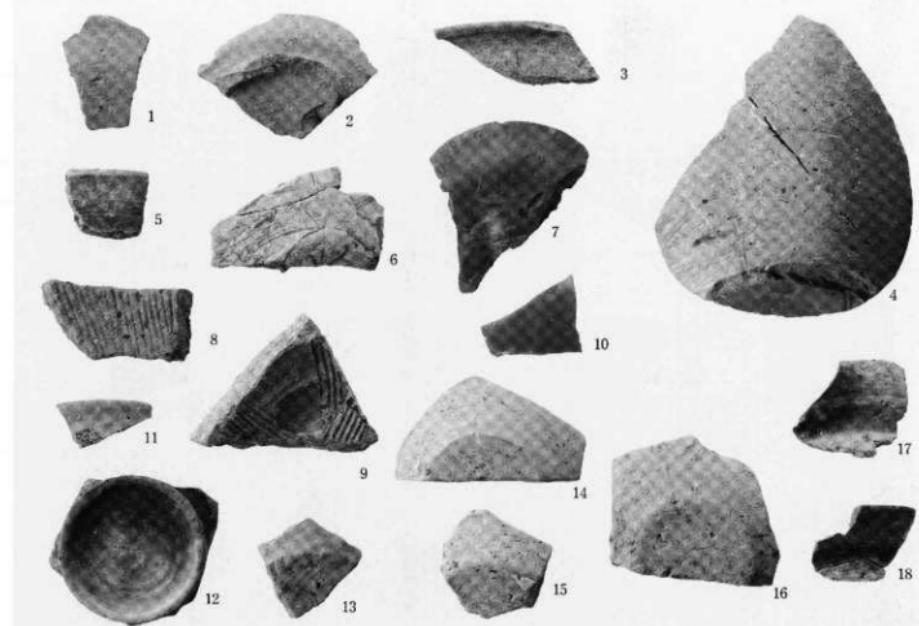
⑤



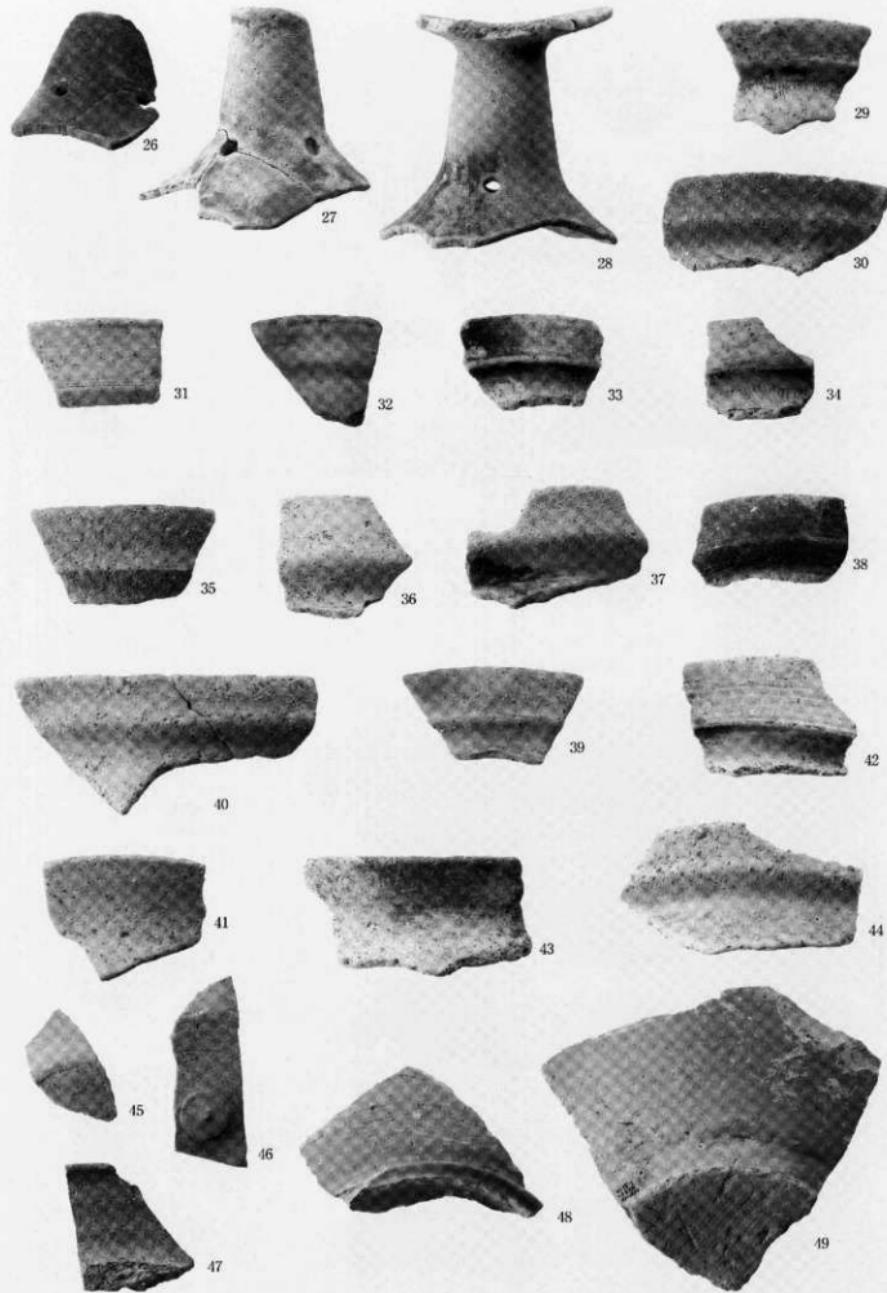
⑥

図版3 久戸Ⅱ遺跡1地区の遺構

- ① 調査区全景
- ② 調査区南側
- ③ X105～110 Y0～15付近
- ④ SD01・SD02
- ⑤ SB01・その他の柱穴
- ⑥ 遺物出土状況



図版4 在房遺跡4地区・久戸II遺跡1地区出土の遺物 (S=1:2)  
(1~10) (11~25)



図版5 久戸II遺跡1地区出土の遺物 (S=1:2)

## 報告書抄録

ふりがな	とやまけんふくみつまちありふさいせきさん・ひさとにいせきいち							
書名	富山県福光町在房遺跡Ⅲ・久戸Ⅱ遺跡Ⅰ							
副書名	県営ほ場整備事業(担い手育成型)北山田北部地区に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(3)							
編著者名	片田重紀・西村倫子							
編集機関	福光町教育委員会							
所在地	〒939-1692 富山県西砺波郡福光町荒木1550 TEL (0763) 52-1111							
発行年月日	西暦2003年3月12日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
在房遺跡	富山県 福光町在房	16421	421170	36度35分 53秒	136度54分 38秒	020430 ~020614	640	県営ほ場 整備事業
久戸Ⅱ遺跡	富山県 福光町久戸	16421	421276	36度33分 40秒	136度54分 53秒	020617 ~020730	1,040	県営ほ場 整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
在房遺跡	集落	縄文時代晚期 古墳時代、古代、 柱穴、土坑 中世				須恵器、土師器、 中世土師器、珠洲、 青磁		
久戸Ⅱ遺跡	集落	縄文時代、弥生時代、 古墳時代、古代、 柱穴、溝、土坑 中世				縄文土器、古墳土 師器、須恵器、土 師器、中世土師器		

県営ほ場整備事業(担い手育成型)北山田北部地区  
に伴う埋蔵文化財包蔵地の発掘調査報告(3)

### 富山県福光町在房遺跡Ⅲ・久戸Ⅱ遺跡Ⅰ

平成15年3月

編集 福光町教育委員会

発行 福光町教育委員会

印刷 (株)ナカダ印刷

